

船舶産業の変革実現のための検討会

設置の目的

- 今後、カーボンニュートラル船・自動運航船をはじめとする**次世代船舶への転換が求められる中、世界的な船舶の建造需要の増加**が見込まれる一方で、我が国船舶産業の技術・供給基盤は盤石とはいえ、**急速な人口減少の中での人材確保という大きな課題**にも直面。
- 我が国船舶産業が引き続き船舶の安定供給によって国民生活や経済安全保障を支えていくためには、**生産性・稼ぐ力が高く若者を含む働き手にとって魅力ある産業に生まれ変わるためのこれまでにない変革が必要**。
- **2030年に目指すべき船舶産業の姿・目標を設定**するとともに、**その方策を検討**するため、**2023年5月に「船舶産業の変革実現のための検討会」を立ち上げた**。

検討事項

① デジタル技術の活用の方向性

- ✓ 事業者間の連携、設計・建造の変革のための方策

② 次世代船舶の供給体制の構築

- ✓ 技術開発、コスト面での競争力確保、設備の増強等のための方策

③ 人材の確保・育成

- ✓ 国内人材・外国人材を確保するための方策

④ 2030年に目指すべき船舶産業の姿・目標

検討会委員

座長： 村山英晶 東京大学大学院新領域創成化学
研究科 海洋技術環境学専攻 教授

大学、研究所、造船、船用、海運、船級協会、造船協力事業者
から計33名が参加

開催経緯・公表

2023年5月30日	第1回検討会
11月13日	第2回検討会
2024年2月21日	第3回検討会
3月27日	第4回検討会
6月26日	第5回検討会
7月16日	報告書公表



会議の様子

船舶産業の変革実現に向けて

2024年

2029年

2030年～

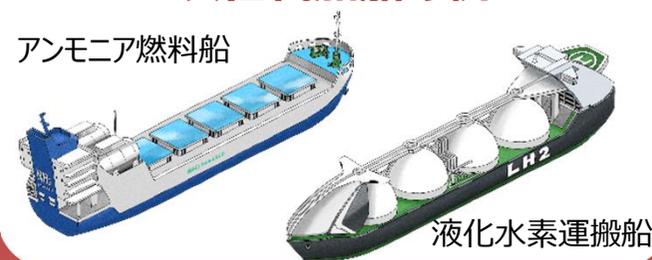
船舶産業の変革ロードマップ

船舶産業が目指す目標

2030年に

我が国海事産業が次世代船舶の受注量におけるトップシェアを確保

次世代船舶の例



船舶産業が目指す姿

新燃料船等の次世代船舶で世界をリードすることで、世界市場で存在感を確保

コア技術・部品への先行投資や船のライフサイクル全体への関与を通じて
価値を生む産業に変革

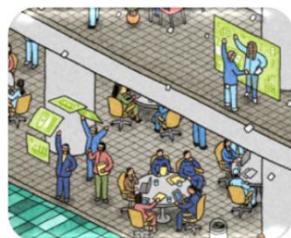
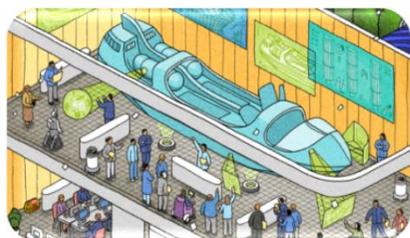
日本の経済・国民生活・安全を支える

◆技術開発・標準化・設備増強により競争力ある次世代船舶を供給する産業に変革

- ・ **次世代船舶に係るコア技術及び周辺船用機器の開発**
- ・ **ゼロエミッション船等の建造に必要な設備投資**
- ・ **船舶関連機器のサプライチェーン強靱化**
- ・ **次世代燃料対応機器の標準化** ・ **事業の集約化・再構築**

◆デジタル技術を駆使し、ニーズに対応できる抜本的に生産性が高い産業に変革

- ・ 上流から下流までシステムインテグレートする**バーチャルエンジニアリング等**を導入し、多様化する顧客ニーズに対応した**高性能な船舶の開発・設計・建造期間の短縮**



<商談・設計・建造に、AI、VR、AR、人協調型・自律走行搬送ロボット等を取り入れた造船業の未来像>

◆待遇改善・魅力向上により十分な人材を確保できる産業に変革

- ・ 他産業に劣後しない処遇確保、環境改善
- ・ 魅力ある動画等の作成、SNS等を活用したPR
- ・ 地域内、あるいはメーカーとユーザが連携した専門研修
- ・ 外国人向けテキスト作成、海外での研修活動 等



(今治工業高校作成CMより)

◆国・船級協会による環境整備により他国と同等の競争環境を実現

- ・ 戦略的な国際基準の策定、公正な国際競争環境の整備